

(陳受22第5号)

非核三原則の法制化を求める意見書の提出に関する陳情

受理年月日

平成22年2月17日

陳情者

吉祥寺南町3-13-10
武蔵野市原爆被害者の会(武蔵野けやき会)
代表 永井 淳一郎

陳情の要旨

広島・長崎の被爆から65年目の年を迎え、その体験者である私たち被爆者の多くが高齢者になりました。

しかし私たちは、人類がつくり出した最も残忍な兵器、核兵器による地獄を体験させられ、あの地獄から生き残った者の使命として、国の内外で被爆体験を語り、核兵器による犠牲者が二度と生まれないことを強く願って、運動を続けてきました。

今その願いに、一筋の光が見えてきました。核兵器を実戦で使用した唯一の国であるアメリカのオバマ大統領が、核兵器のない世界を追求していくことを明言したのです。

この今こそ、日本は、核兵器を落とされた唯一の国として、核兵器の廃絶に向けて主導的役割を果たすべきだと私たちは考えます。そのために、私たち被爆者は、「非核三原則」の法制化を求めます。

この願いが、被爆者のみでなく、国民的意義があることを御理解いただき、貴議会が「非核三原則」の法制化を促す意見書を国会及び関係行政庁に提出くださるよう、陳情いたします。